

文学館だより

令和 2 年 11 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

月いまだかがやかざれどわだつみにうつらふ見れば黄金ながせりこがね

月はまだ海から上ったばかりで、空ではそんなに明るく輝いてはいないけれど、海を見ると、月光が輝いて、まるで黄金（こがね）が流れているようだ。「わだつみ」は海のこと。

大正 6 年 11 月、秩父の旅から戻ってまもなく、千葉県大原海岸を訪ねた時の歌。わずか 2 泊の旅であったが、海を上ってくる満月に思いがけず出会うことができ、その感動を詠んでいる。ありがたやけふ満つる月と知らざりしこの大き月海にのぼれり の歌もある。

『溪谷集』収録
【大谷和子『名歌即訳 若山牧水』参照 短歌の表記は『若山牧水全歌集』による】

伊藤一彦先生 宮崎日日新聞賞特別賞 おめでとうございます

それぞれの分野で素晴らしい功績を挙げ、県民の幸福や本県の発展に寄与した個人・団体に贈られる第 56 回宮崎日日新聞賞の受賞者が発表されました。6 部門 2 個人 5 団体、特別賞 1 個人が選出され、わが文学館館長の、歌人伊藤一彦先生が特別賞を受賞されました。以下、記事内容を抜粋して紹介します。太字部分が掲載内容です。

（宮崎日日新聞 10 月 21 日 掲載）

○若山牧水顕彰けん引

「若山牧水賞」創設

後述いたしますが、今年で 25 回目を数えます。

○「心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会」開催

介護や支援を受けている高齢者、また高齢者を支える家族・施設職員・ボランティアの方々を対象とする短歌大会を開催され、短歌集『老いて歌おう』を発行されています。

○「牧水・短歌甲子園」創設

今年は「国文祭・芸文祭みやざき 2020 さきがけプログラム」として、全国高校生短歌オンライン甲子園が開催されます。盛岡市の全国高校生短歌大会、日向市の牧水・短歌甲子園、高岡市の高校生万葉短歌バトル in 高岡の優勝校が集結する全国初の大会です。県内 3 校を交え 6 校が参加します。申し上げるまでもありませんが、伊藤先生が審査委員長を務められます。

< 日程（予定） >

11 月 7 日（土）10：00～16：30・・・リーグ戦 6 試合、決勝戦、講評

11 月 8 日（日）10：30～11：40・・・審査委員の先生方による座談会「歌が生まれるとき」

< 出場校 >

【県外校】 青森県立八戸高校・・・全国高校生短歌大会 令和元年優勝

高田学苑高田高校・・・牧水・短歌甲子園 令和 2 年優勝

渋谷教育学園渋谷高校・・・高校生万葉短歌バトル in 高岡 令和 2 年優勝

【県内校】 宮崎県立宮崎西高校・・・牧水・短歌甲子園 令和 2 年準優勝

宮崎県立宮崎商業高校

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

両日とも YouTube「いざムーいざ！国文祭・芸文祭みやざきムービー隊」より同時中継。後日、編集した動画も同チャンネルより配信されるとのことです。

伊藤先生、このたびはおめでとうございます。

さらなる先生のご活躍を、ここ牧水生誕の地よりお祈りいたしております。

伊藤一彦短歌実作講座 今年も形を変えて・・・

伊藤先生、再び登場です。これまで年 4 回開催してきた伊藤一彦短歌実作講座。例に漏れず休止かと判断を迫られましたが、伊藤先生と調整しつつ、楽しみに待っていらっしゃる方々のため、毎年開催している事業継続のため、今年も形を変えて実施しました。

○ 10 月 7 日（水）開催。コロナ禍にあり、一堂に会するのは 1 回のみとしました。

○ 短歌 3 首を投稿し、今年も作品集とすること、うち 1 首を講座当日の題材とするこ

とを変更点としました。

10月7日(水)当日、久しぶりに再会した方々も多く、あちらこちらで笑顔の花が咲き、伊藤先生到着の折には皆さんのまなざしが一点に注がれました。

伊藤先生から、近日開催予定の第25回若山牧水賞選考会、全国高校生短歌オンライン甲子園等の紹介があり、「宮崎文化の原点は牧水である」とのごあいさつがありました。

何ヶ月も待たれた皆さんが一心に耳を傾けていらっしゃる後ろ姿を見て、今年も開催できてよかったと思いました。

きみのためつづけていかん相聞歌挽歌は詠まぬ長生きをしる

愛情にあふれたストレートな歌で、「挽歌は詠まぬ」がポイントである、と伊藤先生の評価。この短歌を読んだ瞬間、私はさだまさしの関白宣言が浮かびましたが、こんなに思われている奥様がうらやましいです。

生き方を変えられそうな鳴き声す子猫は野良か飼主ありか

助けを求めている鳴き声が聞こえても、今までだったら連れては帰らない。これからは、考え(方針)を変えていかなければならないかという歌。伊藤先生の評価を聞いて、作者の意図がわかり、何と深い歌かと感動を覚えました。

蝉時雨にボリューム上げてテレビ見る古関裕而の朝ドラエールを

エールは「エール」か『エール』がよいであろう。「古関裕而の朝ドラエールを」は説明なので、具体性を描くと関心度がより高まる、と伊藤先生の評価。牧水先生の「しらとりの歌」の作曲を手がけたのが古関裕而。朝ドラをきっかけに、「しらとりの歌」が広く浸透することを願います。

「この町で第一号にはなりたくない」夫は言ふなりコロナ迫り来

夫のことばを出したところが良い。結句は「コロナ迫り来て」の方がより良い、と伊藤先生は評価。私も作者と同じように思っていたことを思い出し、共感できる歌でした。

今回の作品集より

一日に四コマ行事詰まりおり 吾にもいまだ役目あろうぞ
庭に置く飯が目当ての雀らは鳴きてせがみぬ朝まだきより
山肌を二すじ龍がのぼるごと梅雨の晴間の雲はいきおふ
鐘はなる鐘はなるなり朝な夕な聞きし牧水のころと変はらず



講座の様子

日向市近郊にお住まいの方で、私も短歌を詠んでみたいとおっしゃる方、一緒に参加しませんか。本年度は終了いたしましたので、来年度改めて募集いたします。お聞きになりたいことがありましたら、どうぞ文学館までお問い合わせください。

速報！ 決定 第25回 若山牧水賞

若山牧水賞は、歌人・若山牧水の業績を顕彰するため、短歌文学の分野で傑出した功績を挙げた者に贈られる賞。選考を決定する年の前年の10月1日から当年9月30日までに刊行された歌集及び若山牧水論の著者の中から選ばれる。(若山牧水賞運営委員会)



たに おか あ き
谷岡 亜紀 氏

【受賞歌集】『ひどいどしゃぶり』(ながらみ書房)令和2年8月1日発行
苦しみと感謝が多分まだ足りない酔い覚め今朝も「ひどいどしゃぶり」

『みやざき百人一首』では「陰陽石」(小林市)を詠んでおられます。
性愛の哀しみここに石化して滑稽となるまでの歲月

来年2月、お目にかかれる日が楽しみです。授賞式、牧水生家・文学館来訪の様子など、またご報告いたします。